APRC2017 ポスターセッションに参加して

学校法人河原学園
人間環境大学大学院看護学研究科　特任教授　石井 英子

結核対策に取り組む仲間（中央　筆者）

第6回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会は，結核のないアジア太平洋地域 ― 肺の健康向上への歩みを速めよう ― をテーマに開催されました。会長講演・Opening Lectureでは，大会長である森亨（公益財団法人結核予防会結核研究所）先生が「アジア太平洋における肺の健康」について講演されました。セレモニーは，結核予防会総裁秋篠宮妃殿下のご臨席のもと，盛大に開催されました。

ポスター登録数は127題（取り消し3題あり），2015年のWHOの指定22の結核高負担国のうち，8か国のポスター発表がありました。インド（12題），インドネシア（7題），中国（17題），パキスタン（4題），フィリピン（7題），ベトナム（2題），ロシア（2題），タイ（5題）8か国56題（45.2%）でした。日本（18題），台湾（8題），インドネシア（7題）などの研究発表もあり，高負担国研究者との交流が図られました。テーマ別では，TB in Special Population（13題），MDR（19題），TB Program（24題），Risk Factors for TB（4題），Bacteriological Diagnosis of TB（2題），Other Respiratory Disease（8題），TB Biomarkers and Diagnosis（16題），Diagnosis of MDR TB（5題），Sociological Aspect/Civil Society（7題），Clinical Management（4題），Tobacco control（9題），HIV（5題），Paediatric（6題）でした。WHOが提唱する2035年を目標とした結核終息戦略に向けて，アジア太平洋地域の課題を参加者が認識し可視化した成果は大きいと考えます。本大会において，2事例を報告します。

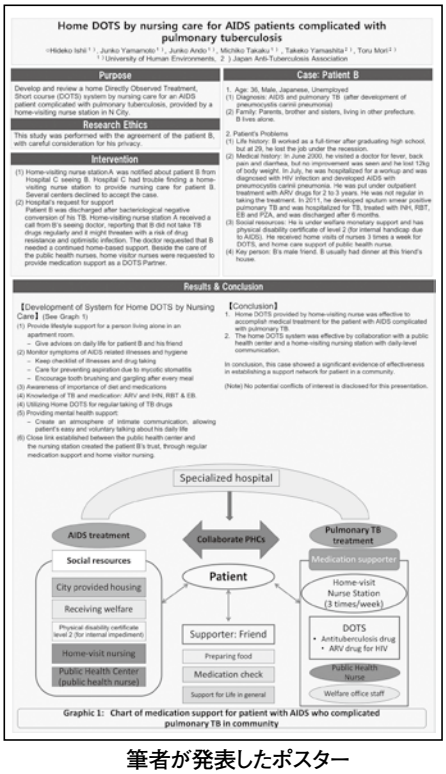
1. TB Program：宮崎県健康増進課　木添茂子氏「新任保健師に伝承する熟練保健師の結核患者支援の視点」

保健師は省察的実戦家として住民へのより良いサービスにつなげていく役割がある。本研究は，結核患者支援活動を伝承することで，新人保健師の人材育成を図るものである。研究対象は，A県における熟練保健師3名と新人保健師3名。研究方法は，結核患者支援について半構造化面接調査を行い，逐語録から支援の特徴を示す記述を抽出し，カテゴリー化した。研究結果は，52の記述を取り出し，8つの共通性と視点が抽出された。結核への高い専門性を備えた患者対応，予防可能例の視点は，地域の健康指標として保健指導につながると考える。

2. HIV：人間環境大学　石井英子「日本のDOTSにおける結核・エイズ患者の在宅看護支援」

カリニ肺炎でエイズと診断された36歳の男性が肺結核を発症した。スメア陽性結核の化学療法のための数週間の入院後退院した。結核治療とエイズの臨床管理を定期的に継続するために，医師は地域での治療と在宅看護を依頼したが，いくつかの在宅ケアサービス局はこのケースを受け入れることを拒否した。そのため，保健所の保健師と協力して訪問看護ステーションの看護師が患者への服薬支援を行い，AIDS合併症の一般的な管理と結核対策のDOTSを提供することとなった。結論：日本では，AIDS患者の自宅療養は，特にTBのような状態で複雑な場合には，利用できないことがある。主治医と保健所との良好な調整及び連携により可能と思われる結核（DOTS）とAIDSの両方を包括的にケアしている看護ステーションで受け入れられた結核/エイズの症例である。

結核の発生予防にこれまでと同じように普及啓発をしていきたい。



筆者が発表したポスター